





# 高山の文化を高めた人々 58

## 飛騨をこよなく愛した風狂の詩人 西村 宏一 林 格男

平成二十一年の秋、飛騨の人と自然をこよなく愛した、風狂の詩人西村宏一さんが、私たちに黙ってこの世を去って行った。独り、次の一句を遺したままで。

### 花屑の散りし跡 梁上の塵は

西村さんは、昭和五年の夏、父君の勤務地大垣市で生まれたが、西村家の菩提寺は京都五山の第二寺相国寺で、幼いころから「忍さん」(後の相国寺管長梶谷宗忍師)、「宏さん」と呼びあう仲の人がいて、坐禅や托鉢をともしたり、同寺の老師たちから機があらば面授の形で、禅の思想や禅の文化を学んだ。

平成10年丹生川村史編纂室にて(後ろ右 西村さん)

しかし、西村さんは生来の強靱な気力をもってそれらの苦難を克服して、大学ではドイツ語やフランス語の原書を通して、西欧の文学をむさぼるように読み、そこで身につけた語学力はけた外れで、大阪ではフランス語のオペラの翻訳に立ち合い、高山ではある病院のカルテを翻訳して裁判所の法廷へ提出している。



高山市民劇場 第1回公演「夕鶴」挿絵

また、高山工業高校の校歌の作詩、「代情山彦著作集」の編集、田島春園『妻山語草』の再編、郡代豊田藤之進の書簡集(筑波大学所蔵)の解説などを手がけ、晩年には高山陣屋御用場日記・同町廻り日記・同口留方

こ相国寺で育まれたに違いない。西村さんは大垣一中から金沢の四高を経て、京都大学の経済学部へと進むが、その間、学徒動員、大垣大空襲、日本軍隊の非情、四高時代の親友三人の自殺、自らの結核の罹病等々、数々の厳しい現実に遭遇した。



山が好きだった西村さん(左下) 平成3年 飛騨民俗の会立山詣で

「三斗会」(酒を三斗飲む)なる会を結成して、定期的にあちこちの里山へ登り、句会などに興じて酒を飲んだ。

西村さんの飛騨文化発展に対する深い想いは、劇団・高山市民劇場の結成にも表れている。西村さんは、六万都市に市民劇団が一つもないことを嘆き、昭和五十二年から元劇団員の森野宏・神出尚・北村淳三氏らに働きかけ、翌年、早くも新劇団によって「夕鶴」が上演された。

西村さんも、「本郷村善九郎」(補作)、「海鳴り」(主人公上木甚兵衛)の脚本を書いて劇団の発展に力を注いでいる。

告げられてみて蠅払ふ 西村さんは、十年ほど前からC型肝炎であることがわかっていったが、平成十八年五月、癌への移行がはっきりして、手術を受けた。

その後、三年間に四度入院を繰り返して、五度目に、ついに帰らぬ人となった。事実上西村さんの遺稿となった句集『醒々著』は未完成であるが、最後の句は

夏草を四五本 抜きて客去れり なんと判断の難しい句である。西村さんは宿題をたくさん置いていかれた。「醒々著」(油断するな)と言いながら。

## 「午年あれこれ」

NHK高山支局 中林 利数

先場所優勝した横綱「日馬富士」は、最初は「安馬」と名乗っていた。名前を変えて、関脇から大関、横綱へと昇進して行った。「安」を「日」に変え、師匠の元横綱「旭富士」の「富士」を付けた。相撲界に目を照らし、大輪の花を咲かせてほしいと。

日馬富士と白鵬は、共にモンゴル出身である。両横綱に限らず、モンゴル出身の力士は多い。日本相撲協会なのか、モンゴル相撲協会なのか。

お寺の山門の左右の仁王像は、私にはモンゴル人のように見える。モンゴルと言えは馬。空前絶後の巨大なモンゴル帝国を築いた原動力は、強力な騎馬軍団であった。もし神風が吹かなかつたら、日本もどうなっていたことか。

モンゴルのナードムという競馬大会は、すごい迫力らしい。競馬だけでなくモンゴル相撲も一緒に行われるという。大草原を駆け回り、相撲



で鍛えた少年たちの中から、強い力士が次々と出てくる。パンツのルーツは、騎馬民族の猿股にあるという。猿股と言わずにブリーフなんて言

った方が上品なのだろうか。西洋禪なんて言ったこともあるらしい。

ブリーフの伝統のモンゴル文化が、禪の文化の日本の土俵の上で、化粧まわしの花を咲かせる。伝統や文化は交わり合い競い合い、歴史は前へ進んでいく。大事な所を長い

### 「風呂(目)」

「もういくつ寝ると、お正月、…」と歌ったあの可愛い子供たちの姿は、今は少ない。歌に出てくる「風呂」や「こま」や「まり」や「追い羽根」なんでものも、あまり見かけなくなった。

「年の始めのためしとて…」というの、「松竹ひつくり返して大騒ぎ、後の始末を誰がする」なんて替え歌にして喜んでいた素朴な子供たちも、もう居ない。

子供たちの遊びも機械化・電子化されて、単純なものはなくなっていく。日々の暮らしの変化をしみじみと感じる歳になって、正月はまた特別に感じる。

元日から店が開いているのも珍しくなくなった。だいたいいおせち料理と言うものは、何もしないで三が日を食いつなぐものではなかったか。

昔懐かしい童謡や唱歌は、保育園や小学校の窓からはあまり聴こえてこず、いつしかデイサービスの窓から聴こえてくるようになった。

子供を増やしたい。男女の出会いを増やしたい。正月におせっかいなおじさんおばさん達の復活を切に願う。

(ガンモン毛筆)

## 平成二十五年 市長と語る会 開催報告

文化協会役員と高山市長、教育長をはじめとする幹部職員との語る会(意見交換会)が、十月二十九日に市役所において開催されました。

当日は、文化協会から十一名、高山市からは六名が出席し、活発な意見交換が行われました。

昨年にも議題が上がった新文化会館の建設について、その後の展望を尋ねたところ、「第八次総の内容については、来年夏頃に示す予定であり、建て替えか改修かの検討を進める」との回答でした。

指定管理を行う文化協会として、「現在、修繕費が予算を大幅にオーバー



布で包むというのは、六尺禪もインド人のターバンも似ているような気もする。

さて新年明けて、ここはめでたく西陣織りかドスキンの禪で決めて、お屠蘇でもいただきますか。初夢は一富士、二馬、三茄子なんて。私、今年も午年の年男。

その他、「春と秋の高山祭と屋台行事」のユネスコ無形遺産登録に向けての活動や、今後の飛騨高山文化芸術祭の取り組み等について、意見が交わされました。

おめでとうございます 文化協会会員の受賞・入選 (敬称略・順不同)

**旭日小綬章(地方自治功労)**  
下山清治 高山市下切町  
永年に亘り、地方自治の進展に尽力。

**芭蕉蛤塚忌全国俳句大会 文部科学大臣賞**  
亀山歌子 高山市片原町  
一般の部投句数3,000余りより、名俳人有馬朗人ら5名の選者によって、厳正なる審査の結果、最優秀となる。

**岐阜県伝統文化継承者顕彰(和装)**  
岩島玲子 高山市松本町  
岩島玲子和装学院院长…永年に亘り講師・助講師の育成を行うと共に、外国の方への着付け、市観光協会実施のイベントや成人式での着付けを通して、着物文化の普及に尽力。

**岐阜県伝統文化継承者顕彰(邦楽)**  
下畑喜久英 高山市森下町1  
飛騨三曲会・邦楽愛好会生田流…永年に亘り後進の指導や中学校の音楽指導に尽力。

**中部新制作絵画展 入賞**  
新制作展絵画部門 入選(2回目)  
石原里実 高山市森下町1  
「こさめひたき」「遠い崖辺」「うたかた」儚さ、弱さ、哀しみを見つめて、命の根源に向かって描く。

**岐阜県伝統文化継承者顕彰(伝統工芸)**  
元田五山(三郎) 高山市西之一色町3  
飛騨一位一刀彫協同組合…岐阜県卓越技能表彰(H6)、岐阜県芸術文化等特別奨励賞(H6)、通産省大臣表彰(伝統産業功労、H12)、国の卓越技能表彰(現代の名工)(H15)を受け、一位一刀彫の普及に尽力。

昨年ご紹介しました右の方々は、今年も受賞されました。おめでとうございます。

- 元田木山…日影展優秀賞(2回目)、日展入選(13回目)
- 松本弘司…新制作展入選(11回目)
- 瀬川斐山…日展入選(9回目)

飛騨高山文化芸術祭 こだま〜れ2013

平成26年

# 飾り物展

～干支「午」と歌会始御題「静」～

■日時/ 1月17日(金)～19日(日)  
午前9時～午後5時(最終日は午後4時まで)

■会場/ 高山市民文化会館 3階講堂(一般の部)  
美術工芸室(高校生の部)

「巳」三すくみ  
天位  
「立」 大空に聳える東京タワースカイリー  
天位  
※写真は昨年の天位の作品

主催:高山市/(一社)高山市文化協会 共催:高山飾物同好会